

ICタグで金型在庫管理

NTTデータと共同開発 横浜工場で実証実験

日産自動車は4日、ICタグを使った無線識別(RFID)で金型の在庫管理をするシステムを、NTTデータと共同で開発したと発表した。従来、作業者が記憶や帳簿で管理した金型の製作状況や所在、修繕履歴などの情報を一元管理する。パワートレインの主要工場である横浜工場(横浜市神奈川区)に先行導入し、半年間の実証実験を行う。今後は他工場での展開も視野に入れ、工程管理や自動発注などの機

能拡張を計画している。同システムは、金型にひもで取り付けた管理表に張り付けたIDを読み取るもの。管理表を重ねた状態でのタグの読み取りが可能な「積層読み取り機能RFID」タグを

採用した。金型在庫の管理精度の向上と、作業者への負担軽減を実現するという。積層型RFIDタグでの金型管理は製造業では世界で初めてという。日産とNTTデータは今後半年間かけて、駆動

部品の鍛造金型管理での効果を実地検証する。横浜工場では、日産生産方式(NPW)に加え、金型管理システムを導入することで品質、コスト、納期の一層の改善に取り組むとしている。